

令和5年度蕨市上下水道審議会（第1回） 会議録

日時 令和6年2月9日（金）午後2時

場所 蕨市立中央公民館 集会室

出席者（敬称略）

【委員】長野眞由美（会長）、貫井和子（副会長）、岡田三喜男、新妻朋子、藤井道子、奥田光由、澤田勇治、眞下春美、内藤裕子、池田聡美、岡田宏予、岡村増美、下村實、座光寺剛

【事務局】

- ・水道部：相馬一富（水道部長）、尾上聡（業務課長）、齋島映吾（業務課庶務経理担当係長）、黒須康文（業務課庶務経理担当係長）、大久保海里（業務課庶務経理担当主査）、鈴木昭弘（維持管理課長）、金子修（維持管理課長補佐）
- ・都市整備部：高橋稔明（都市整備部長）、外裏雅一（下水道課長）、堤英康（下水道課工事係長）、浪岡充（下水道課工事係技術主査）、吉野淳之（下水道課工事係技術主査）、鈴木陵（下水道課維持管理係長）、森田文幸（下水道課維持管理係技術主査）

欠席者（敬称略）

【委員】沖田昭治、比企孝司、松原由紀恵、池田嘉弘、永井美知子

内容

- 1 開会
- 2 水道部長挨拶
- 3 議題
 - (1) 水道事業決算報告について
 - (2) 下水道事業決算報告について
 - (3) 蕨市公共下水道事業 社会資本総合整備計画「蕨市における下水道の防災・安全基盤整備」事後評価について
 - (4) その他
- 4 閉会

配布資料

- ①次第
- ②委員名簿
- ③令和4年度蕨市水道事業会計決算書
- ④令和4年度蕨市公共下水道事業会計決算書
- ⑤蕨市における下水道の防災・安全基盤整備事後評価説明資料
- ⑥蕨市における下水道の防災・安全基盤整備事後評価事後評価書（案）
- ⑦蕨市における下水道の防災・安全基盤整備事後評価参考資料

会議の概要

水道部長挨拶

議題

(1) 蕨市水道事業決算報告

上記について事務局から説明を行った後、質疑応答が行われた。

【委員】令和4年度水道料金基本料金2ヶ月分無料化の費用はいくらか。また、令和5年度水道料金基本料金4ヶ月分無料化の費用はいくらか。

【事務局】令和4年度については税抜で73,856,600円、水道事業会計からの持ち出しはなく、必要経費も含めて一般会計から補助を受けている。令和5年度については、令和4年度の約2倍の150,000,000円弱で令和4年度と同様に一般会計から補助を受けており、水道事業会計の収支に影響はない。

【委員】令和5年度水道事業会計について、現時点での見込みは赤字決算と黒字決算のどちらか。

【事務局】給水収益の減少があるが、現時点では黒字を計上できると見込んでいる。

【委員】料金改定の予定について。

【事務局】現時点では予定していない。ただし、給水収益の減少や県水の値上げ、動力費の高騰等による費用の増加が経営状況を著しく逼迫するのであれば、検討していかなければならないと考えている。

【委員】蕨市の配水管耐震化の進捗について。

【事務局】令和5年度末の見込で主要な管路（基幹管路）については99.4%、重要施設

配水管路については92.7%で、ともに全国平均を大きく上回り着実に耐震化を進めている。

【委員】 蕨市で能登半島地震と同規模の地震が発生した場合の給水体制について。

【事務局】 地震発生直後は濁り水の発生の可能性はあるが、応急給水栓等を通して給水は可能。給水車については、日本水道協会を通じて被災しなかった自治体が応援に駆けつけるという体制になっている。

【委員】 決算書8頁貸借対照表、2 流動資産 (2) 未収金 270,336,112 円貸倒引当金 2,789,265 円により結果として未収金 267,546,847 円という解釈でよろしいか

【事務局】 そのとおり。ただし、3月末時点の決算のため3月検針分(錦町・北町・塚越)水道料金が未収金として含まれている。なお、4月末にはその分についてほぼ回収されている。

(2) 下水道事業決算報告

上記について事務局から説明を行った後、質疑応答はなかった。

(3) 蕨市公共下水道事業 社会資本総合整備計画「蕨市における下水道の防災・安全基盤整備」事後評価について

上記について事務局から説明を行った後、質疑応答が行われた。

【委員】 雨水管渠の整備期間について、どれくらいかかるのか。

【事務局】 錦町土地区画整理事業に伴って進めていることもあり、区画整理事業の計画が令和30年度となっているため相応の期間を要すると考えている。

【委員】 内水氾濫の対策についてはどうか。

【事務局】 雨水管渠整備による貯留量は約8,300 m³(令和4年度末現在)。北町調整池が5,300 m³であるため、それ以上の貯留効果はあると考えている。

【委員】 錦町地区以外の整備計画についてはどうか。

【事務局】 下水道整備は一旦完了しているが、大雨時に道路冠水など浸水箇所は把握しているため、今後の浸水の状況等を見ながら具体的な時期は未定だが、必要な施設については検討していきたい。

【委員】 貯留量8,300 m³とは、どの程度の規模なのか。降水量に換算すると1時間あたり何ミリに当たるのか。

【事務局】 錦町雨水管渠整備において、1時間あたり55ミリの降水量対応で進めてお

り、最終的には錦町富士見公園野球場の下に 39,600 m³の調整池が完成する予定である。現存の雨水管渠については暫定的な貯留管としての役割を期待しているが、平成 18 年度から管渠整備を進めている中で、進捗状況は 2 割程度であることから、浸水防除としては、それほど見込めないのが実情である。

【委員】錦町の調整池は、いつごろ工事が開始し、完成するのか

【事務局】具体的な時期については未定である。平成 18 年度から幹線を主体に管渠整備を進めており、進捗状況は 2 割程度である。仮に今、調整池を作っても、貯留量に見合う雨水をそこに集めることができなく、能力を十分に発揮できないため、管渠整備を先行して行っている。

(4) その他

上記について事務局からは説明はなく、質疑応答が行われた。

水道部回答

【委員】能登半島地震で、水道の復旧に時間がかかっているのはなぜか。

【事務局】詳細な情報は不明だが、半島という地形の特殊事情もあり、道路が寸断されると道路の復旧と並行しながらの復旧作業となるため、水道の復旧に時間がかかっているのではないかと推察される。

【委員】災害時の市内にある井戸の使用について。

【事務局】市内には井戸が 9 か所あり、そのうち 4 か所は停電時にも汲み上げられるように自家用発電機を設置している。汲み上げた井戸水は、そのまま使用することはできないため、導水管を通して各浄水場に送水されてから使用できる。導水管（基幹管路）については、9 本のうち 7 本は耐震化が完了している。

なお、地震発生直後は濁りがあるため落ち着くまで 3 日程度かかると想定しているため、各ご家庭でも 3 日分程度の備蓄をお願いしたい。

【委員】市内に手動ポンプ式の井戸があったと思うが、災害時に使用できないか。

【事務局】水道事業として管理している井戸ではなく、個人が所有しているものではないかと思われるため、使用できるか等の状態は把握していない。

下水道課回答

【委員】中央小学校付近も浸水があるが、錦町地区とは別になにか対策できないか。

【事務局】下水道課としても 17 号と旧中山道の交差点付近の道路冠水など浸水状況は認識しているが、錦町地区の整備が終了しないと次の対策を検討することは難しい。

【委員】災害時のトイレとしてマンホールトイレの設置を考えているか。

【事務局】下水道管の破損が想定されるため、マンホールトイレの設置ではなく、トイレセットの備蓄を進めている。